

金沢大学国際基幹教育院外国語教育系・外国語教育部門 2017年度活動記録

■事業日誌

- 3月26日 第91回中国語検定試験
- 4月 初習言語履修相談会（全2日）
- 6月 ドイツ語技能検定相談会
- 6月 春季フランス語検定模擬試験（全2回）
- 6-7月 金沢大学公開講座「各国シリーズ 現代海外事情」（全5回）
- 6月25日 第92回中国語検定試験
- 7・12・1月 初習言語アワー（各言語1-2回）
- 7月10日 第1回FD研究会「EAP ワークショップ1」
- 8月7日 キャンパスビジット「海外留学コーナー」
- 8-9月 TOEIC 夏季集中講座（全6回）
- 9月16日 第1回IELTS 学内実施
- 11月28日 FD/SD 講演会 岩田祐子「国際基督教大学リベラルアーツ英語プログラムにおける全学共通英語教材の意味と役割」
- 11月 秋季フランス語検定模擬試験（全1回）
- 11月 冬季ドイツ語技能検定試験対策講座（全2回）
- 11月26日 第93回中国語検定試験
- 12月2日 第2回IELTS 学内実施
- 12月3日 冬期ドイツ語技能検定試験
- 12月22日 第2回FD研究会 三上純子「初習言語教育におけるフラッシュカード使用の試みについて」
- 1月9日 第3回FD研究会 橋本将「EAP コースの成績統計分析」
- 2月16日 第4回FD研究会「EAP ワークショップ2」
- 2月20日 第5回FD研究会「初習言語の派遣留学生の実力養成に受けた効果的なサポート体制の構築を目指して」
- 2月 TOEIC 春季集中講座（全2回）

■FD/SD 講演会

11月28日 「国際基督教大学リベラルアーツ英語 (English for Liberal Arts) プログラムにおける全学共通英語教材の意味と役割」

講師：岩田祐子 (国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科教授/リベラルアーツ英語プログラム主任) (参加人数 20名)

長年、全学共通の英語プログラムを運営している国際基督教大学 (ICU) で、現在リベラルアーツ英語 (ELA) プログラムの主任である岩田祐子教授をお迎えし、共通英語教材の意味と役割に関する講演をしていただいた。ICUにおけるELAの位置付けに関する話に始まり、ELAのカリキュラム構成に関する説明、そして実際に現在教科書として用いられているリーディング教材を紹介していただいた。EAPの今後の共通教材作成のための教材の選定から実際の使用に関するノウハウに加え、全学共通英語プログラムのカリキュラム作りに関する様々な助言を仰ぐことができ、講演後は活発な意見交換がなされた。来年度以降のEAPのカリキュラムの改善や、将来の共通教材作成に関して、知見を借りることのできた有意義な機会となった。(菅野磨美記)



■FD 研究会

■第1回 7月10日 「EAP ワークショップ1」

(参加人数 20名)

7月10日に、EAPコース担当者のためのワークショップが開催され、20名が参加した。今回は、EAP教育企画部会メンバーによるEAPIとEAPIIの授業実践報告と、成績評価に関する説明とディスカッションが行われた。授業実践報告を受け、参加者から授業のしかたやアクティビティ・ラーニングの導入のしかたについて、質問やコメントがあった。また、成績評価のしかたについては、よりわかりやすいレポートの必要性や授業中の活動の評価方法について参加者から意見や要請があった。ワークショップで出された意見については、今後のシラバス修正の参考にすることにしたほか、年度末に開かれるワークショップの内容選定にも反映することにした。(大藪加奈記)

■第2回 12月22日 「初習言語教育におけるフラッシュカード使用の試みについて——初級フランス語クラスでの実践例——」

報告者：三上 純子（外国語教育系教授）

（参加人数 10名）

三上純子先生によるご発表は、英語や日本語教育の現場で、主に子供を対象として広く使用されている教材であるフラッシュカードを、日本の大学生対象の教材として本格的に授業で用いた実践報告でした。



三上先生は旧外国語教育研究センター時代に、フラッシュカードの教育現場における教材としての有効性に着目され、当時外国語教育研究センターに在籍しておられたアンティエ先生、熊本大学のサガズ先生とともにフラ

ッシュカードを組み込んだ教材を作成・出版されましたが、教材作成のご苦労は相当なものであったそうです。カード化する単語の選定に始まり、ポスター（カードを補足する役割の情報量の多いイラスト）の作成、単語の性別ごとの色分け、イラストの彩色への具体的な指示など、教材作成時のおよそ1年半に著者である先生方が交わしたメールは1000通を超すとのことでした。様々な苦労の末に出版された教材『FLASH!』は、今までにないタイプの教材として好評を得ています。

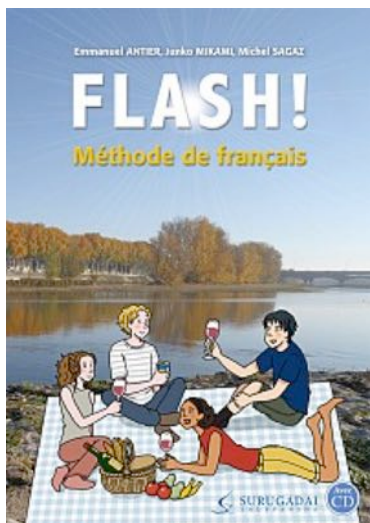
実際にフラッシュカードを使用した学習者・教員の声も紹介されましたが、基本的にはその教育的有効性を高く評価するものばかりでし



た。フラッシュカードは、文法の授業、コミュニケーション中心の授業の双方で利用でき、また授業を行なう教員のネイティブ、ノンネイティブをも問いません。学習者にとっては語彙の記憶やグループ化、反復練習による効果も高く、何よりも教室内に一体感や集中感が生れ、授業が活性化されるという側面は外国語学習空間としては理想的であると言えます。

後半30分は意見交換・質疑応答を行いました。出席者からは様々な感想・意見・質問の声が上がり、活発なやりとりが交わされ、あっという間に時間が過ぎて行きました。

三上先生は長らく本学のフランス語教育に携われ、多くの制度改革・カリキュラム変更などを経つつも、時に優しく、時に厳しく、そして常に真摯に学生の指導に当たられてきました。今回の研究会はフラッシュカード使用の有効性だけでなく、三上先生の教授法やお人柄に対する学生の全幅の信頼や親愛感が、理解できるような会であったと思います。（杉村安幾子記）



『FLASH!』エマニュエル・アンティエ，三上純子，ミシェル・サガズ著，

駿河台出版社，2015年3月，ISBN978-4-411-01118-3 C1085

■第3回 1月9日 「EAP コースの成績統計分析」

報告者：橋本将 (外国語教育系准教授)

(参加人数 15名)



In his presentation titled "EAP grade distribution: Statistical analysis", Professor Hashimoto of the Institute of Liberal Arts and Science explained his analysis of the grading of the EAP courses from the 2016 academic year and from 2017 Quarter 1. The analysis showed that instructors have a significant effect on the grades received by students and that the block students belong to (e.g. Jinsha 1 or Rikou 2) also has a significant effect. However, the affiliation of instructors (i.e. whether they belong to the Institute of Liberal Arts and Science, to other departments in the university or are part-time instructors) does not have a significant effect on grading. Professor Hashimoto also compared the grading of the EAP I courses in 2016 and 2017 and the same for the EAP II courses. This analysis showed that for EAP I, although instructors had an effect

on the grades received by students in both years, the effect was significantly smaller in 2017. For EAP II, however, there was no difference in the magnitude of the effect in each year. Following the presentation, the attendees discussed the findings and the grading of the EAP courses.

(Dale Brown)



■第4回 2月16日 「EAP ワークショップ」

(参加人数 14名)

今年度第2回目となる EAP コース担当者のためのワークショップを開催し、14名の参加があった。今回は、1) 新シラバスの変更点説明、2) 4トピックの同時セッション、3) 全体議論、そして4) 新任教員への説明、を行った。4トピックの同時セッションでは、「授業活動の評価方法」「学生の発言を促す方法」「サマリーの書き方」「EAP III/IV 教材の選び方」の4つのトピックについて、それぞれ小グループに分れてミニ・プレゼンテーションと活発なディスカッションが行われた。全体議論では、成績評価の標準化について参加者から多くの意見が出された。特に、すべてのクラスで標準ベルカーブに近い成績分布にする事に対しては、疑問の声が多く上がった。(大藪加奈記)

■第5回 2月20日 「初習言語の派遣留学生の実力養成に受けた効果的なサポート体制の構築を目指して」

報告者：杉村安幾子・斉木麻利子・早川文人・三上純子・平松潤奈・趙菁

(参加人数：10人)

外国語教育部門初習言語教育企画部では、2015年度からプロジェクト「初習言語の派遣留学生の実力養成に受けた効果的なサポート体制（授業内・授業外）の構築を目指して」に取り組んできた。本研究会は、その総括としてのプロジェクト報告である。

まず国際機構から斉木麻利子先生をお招きし、過去5年間の本学の初習言語での派遣留学実績をその特徴とともにご紹介頂き、次いで3年間のプロジェクト内で行なった派遣留学帰国学生対象のアンケート結果の分析・考察を、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語の順に報告した。その中で各言語における学習者の特徴や、派遣留学帰国学生の教員や大学側への要望、共通する課題などが浮き彫りとなった。

まとめとして、2016年度・2017年度の2年間に亘り、初習言語科目の一部のクラスで実施した「初習言語アワー」の報告を行なった。これはアンケート調査において、独仏露中全てに共通していた「留学していた言語圏から来た外国人留学生と一緒に学べる授業」への学生の強い期待を受け、学習支援の一環として、授業内で本学学生と留学生との交流および会話練習の場を設定したものである。最後に質疑応答・

意見交換の時間を設けたが、より深い

議論に至る前に時間切れとなってしまう

った。時間割やカリキュラムなどの制

約のある中で、初習言語の授業内外に

おける有効な学習サポートについては、

今後も我々初習言語担当教員の継続テ

ーマとなるだろう。

本プロジェクト報告は『外国語教育

フォーラム』第12号に掲載されている。

(杉村安幾子記)



■学習支援事業

■初習言語履修相談会

4月4・5日、新入生を対象に初習言語の履修に関する相談会を開催した。それぞれの言語の特徴と魅力を伝え、科目選択の助けにしようとともに、履修登録手続きに関するアドバイスも行った。以前よりも開催期間が短くなっているが、来た学生は熱心に話を聞いてくれる。新一年生の時間割は、ほとんどがあらかじめ決められた科目で埋まっており、選択の幅は狭い。そのような状況下で、初習言語をどれにするか迷い、決定することは、新一年生に残されたわずかな自由と主体性発揮の場面である。またここで選んだ初習言語は、ある程度彼らの今後の大学生活におけるアイデンティティ基盤にもなっていくだろう。そうした意味で、大学に入って新しいことに挑戦しようという意気込みをもった学生たちを初習言語教育の立場から支援していくこの履修相談会の試みは、貴重なものとなっている。(平松潤奈記)

■留学支援事業

■キャンパスビジット

8月7日に金沢大学キャンパスビジットが開催され、外国語教育部門は、国際機構とともに「海外留学コーナー」を担当し、語学研修・派遣留学・外国語学習等に関して、高校生や保護者からの相談や質問を受けた。全国各地から来校した参観者は、本学の国際交流への取り組みに高い興味を示してくれた。外国語教育部門の分担は以下の通り。

時間帯	担当者
9:30~10:30	大藪、ブラウン
10:30~11:30	菅野
11:30~12:30	数見、三上、趙、平松
12:30~13:30	杉村、ハーン、ハモンド、マウラー
13:30~15:00	数見
15:00~16:00	早川、橋本、菅野

■初習言語アワー

「初習言語アワー」とは、初習言語担当教員が実施したプロジェクト「初習言語の派遣留学生の実力養成に向けた効果的なサポート体制(授業内・授業外)の構築を目指して」の初年度(2015年度)のアンケートにおいて、独仏露中4言語全てに共通していた「留学していた言語圏から来た外国人留学生と一緒に学べる授業」への学生の強い期待を受けて実施した学習支援である。2016年度・2017年度の2年間において、語学研修や派遣留学を志す学生を主たる対象とし、学生同士の主体的・積極的コミュニケーションを目的として、授業内において本学学生と留学生との交流および会話練習の場を設けた。この企画に対して、日本人学生・外国人留学生ともに好感触であり、「今後も続けて欲しい」との声が上がっている。(杉村安幾子記)

「初習言語アワー」2017年度の実施言語、日時、参加学生数などは以下の表の通り。

言語	実施日時 授業時限	授業科目名	参加学生数	
			日本人	留学生
ドイツ語	1月15日5限	ドイツ語A (充実クラスI)	29名(1年生23名、3年生5名、 4年生1名)	1名(デュッセルドルフ大学)
中国語	12月13日2限	中国語A (充実クラスII)	11名(全員1年生。国際学類5名、 人文学類4名、法学類2名)	3名(上海海洋大学、蘭州交通大学、安 徽池州学院)
フランス語	12月18日5限	フランス語A (充実クラスII)	22名(1年生および派遣留学予定 者等15名、派遣留学帰国者15名)	6名(トゥールーズ・ジャン・ジョレス 大学2名、ロレーヌ大学1名、ジャン・ ムーラン・リヨン第3大学2名、モント リオール大学1名)
スペイン語	12月21日4限	スペイン語A4	35名	1名(メキシコ)
ロシア語	7月4日3限 7月5日4限	ロシア語B ロシア語C	7名 5名	1名(極東連邦大学) 1名(極東連邦大学)
朝鮮語	朝鮮語では非常勤講師担当のBやCの授業に韓国人留学生在が毎年1、2名参加しており、日頃からジョイントの授業が行われている。また、Kフレンズという文化サークルでも交流が行われている。Kフレンズの活動として、12月8日に韓国の留學生も参加してカラオケ大会を行った。また、12月22日にはKフレンズの忘年会を実施した。			



初習言語アワー：中国語



初習言語アワー：ドイツ語

■検定試験関連事業

■IELTS 学内実施

H29 年度 IELTS 学内受験の実施日時、受験者数は下記の通りである。

9月16日 20名

12月2日 32名

■TOEIC 集中講座

前年度に引き続き、英語学習アドバイザープログラムと連携して、休み期間（夏季・春季）に TOEIC 集中講座を実施した。

実施日時および概要は以下の通り。

TOEIC 夏季集中講座

8月9日	12:30-15:15	模試会（公式問題集使用）
8月21日	12:30-15:15	模試会（「至高の模試600問」使用）
8月22日	13:00-17:00	TOEIC 対策講座<中級編>リスニング
8月23日	13:00-17:00	TOEIC 対策講座<中級編>リーディング
9月1日	9:45-17:00	TOEIC 「直前」対策講座
9月11日	9:45-17:00	TOEIC 対策講座<入門編>

TOEIC 春季集中講座

2月15日	9:45-17:00	直前3週間「直前に対策しておきたいポイント」講座
2月16日	9:45-17:00	直前3週間「直前に対策しておきたいポイント」講座

■ドイツ語技能検定試験

夏季独検対策として、6月に独検相談会（個別対応）を行った。参加者は合計11名。

冬季独検対策講座を下記の日程で実施した。参加者は合計21名。

11月10日金5限3級対策 15名

11月17日金5限2級対策 6名

12月3日（日）金沢大学総合教育等で冬季ドイツ語技能検定試験を実施した。

出願者の延べ数は117名だった。（金沢大学の受験者の各級の合否情報は、独検事務局から提出されなかった。）

■フランス語検定模擬試験・実用フランス語技能検定試験

フランス語検定模擬試験

実用フランス語技能検定試験の日程に合わせ、春は6月8日、14日に、秋は11月13日に模擬試験を実施。

参加者は、準2級3名、4級16名。

2017年度実用フランス語技能検定試験受験者数 括弧内は合格者数

	春季 (6/19)	秋季 (11/19)	合計
1級	0		0
準1級		2(0)	2(0)
2級	4(2)	3(1)	7(3)
準2級	6(4)	4(3)	10(7)
3級	8(6)	5(2)	13(8)
4級	9(8)	10(9)	19(17)
5級	1(1)	0	1(1)
合計	28(21)	24(15)	52(36)

■中国語検定試験

実質受験者数と合格者数 (括弧内数字)

	第91回 (3/26)	第92回 (6/25)	第93回 (11/26)	合計
準1級	0	0	1 (0)	1 (0)
2級	2 (0)	3 (0)	8 (2)	13 (2)
3級	7 (1)	6 (4)	10 (5)	23 (10)
4級	12 (11)	2 (2)	6 (5)	20 (18)
準4級	0	0	0	0
合計	21 (12)	11 (6)	25 (12)	57 (30)

会場責任者：杉村安幾子

試験監督者：杉村安幾子・趙青

■社会貢献事業

■金沢大学公開講座「各国シリーズ 現代海外事情」(会場：金沢大学サテライト・プラザ)

公開講座「各国シリーズ」は、外国語教育系の各言語の教員が、それぞれの専門とする国・地域の歴史・社会・文化・自然などについて特定の視点から切りとり、市民に話題提供するプログラムである。今年は「現代海外事情」というテーマのもと、各地域が現在抱えている社会問題や、通常メディアであまり触れることのない文化事象を紹介した。講師陣は、毎年かなりの時間を準備に割いており、その結果、受講者からおおむね好評を得ているが、他方で、大学の授業とは異なるレスポンスにとまどう場面もある。話題についての前提知識や受講についての考え方が多様な市民の方々とどのような共通の言語を見出していくかは、これからも毎回、課題になるであろう。(平松潤奈記)

プログラムは以下の通り。

- | | | | |
|-----|-------|-------|-------------------------------------|
| 第1回 | 6月7日 | 杉村安幾子 | 〈中国編〉中国人最愛面子：中国人的「メンツ」の実態 |
| 第2回 | 6月14日 | 大藪加奈 | 〈トルコ編〉TV連続ドラマ大国 |
| 第3回 | 6月21日 | 早川文人 | 〈ドイツ編〉メディア報道から見るドイツ語圏の「いま」 |
| 第4回 | 6月28日 | 平松潤奈 | 〈ロシア編〉失われた国を求めて：プーチン時代のソヴィエト・ノスタルジー |
| 第5回 | 7月5日 | 三上純子 | 〈フランス編〉出生率から見るフランスの現在 |

■刊行物

- 『初習言語ガイドブック』2018年度版
- 『言語文化論叢』第22号
- 『外国語教育フォーラム』第12号(今号より、電子版のみの発行となった)